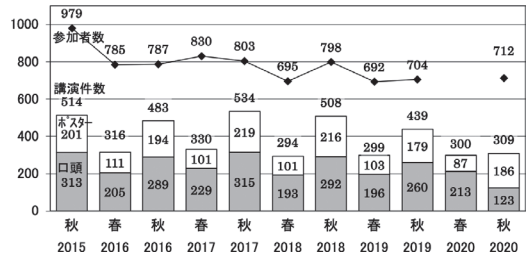


2020年度秋季大会の報告

2020年度秋季大会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、当初予定していた京都テルサ(京都市南区東九条下殿田町70番地)を会場とする開催は行わず、インターネットを介したオンライン開催とした。

大会は、一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する4件の専門分科会で構成された。発表形式は、大会ウェブサイト上に発表資料を掲載し、ウェブサイト上で質疑応答を行う新形式のオンデマンド講演と、ウェブ会議システムによるオンライン口頭セッションの二通りの形式を導入した。オンデマンド講演は全講演者を対象とし、口頭セッションは希望者のみを対象として実施した。一般講演の発表件数は262件(内、口頭発表93件)、専門分科会は47件(内、口頭発表30件)で計309件であった(第1図)。

10月27日には、ウェブ会議システムを使用した理事長、大会実行委員長の挨拶に始まり、各賞授賞式が行われた。牛尾知雄氏と須藤健悟氏に堀内賞が、梅澤拓氏と川瀬宏明氏に正野賞が、齊藤雅典氏と南出将志氏に山本賞が、吉野勝美氏に小倉奨励賞がそれぞれ授与され、堀内賞、正野賞、山本賞の受賞者による記念講演が行われた。また、2020年度春季大会の際には実施できなかった気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞受賞者による受賞記念講演も行われた。



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数(口頭、ポスター)。2020年度秋季大会のポスターの件数は、オンデマンド講演のみを実施した講演の件数。2020年度春季大会は予稿集の発行により大会開催としたため、参加者数は無しとした。

10月29日には、ウェブ会議システムにより第8回気象学史研究会が開かれた。

今大会の開催に当たり、3の企業・団体からご協賛・ご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、大会実施にあたり、関西支部(大阪管区気象台、京都大学、京都産業大学、神戸大学、同志社大学)、電子情報委員会、人材育成・男女共同参画委員会の皆様にご協力を頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2020年11月 講演企画委員